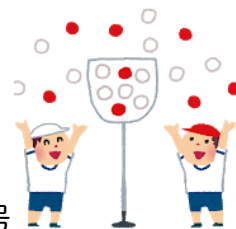


スクラム

令和2年 9月号



下学年のリーダーとして

2学期が始まり、子供たちは下学年のリーダーとして、運動集会に向けて何度も話し合いを繰り返しています。最初は「どんなリーダーになればいいのかな」「お手本っていうけれど…」など、悩む姿が見られました。しかし、赤団、青団がそれぞれ話し合いながら活動をしていく中で、子供たちから「3年生のみんなで、協力して頑張っていこう」という思いが少しずつ芽生え始めてきました。今では、「このやり方だと、低学年がうまくできないかもしれない」と、自分たちより下の学年のことを考える発言も聞かれるようになりました。

2学期は、3年生にとって集会や行事を通して、大きく成長できる時期だと考えています。子供たち一人一人が思いや考えをもって話し合う姿をととても楽しみにしています。2学期は、子供たちの「こう考えている」「やってみたい」という思いを大切にしていきたいと思います。

☆合言葉は「みんなで力を合わせて勝つ」☆

運動集会に向けて、3年生は自分たちで「どうすればいいか」を考える機会が増えました。ダンシング玉入れでは、各団でダンスの振り付けを考えました。振り付けを自分たちで考えることが決まった次の日のプラス1には、赤団のSさんとTさんが自分たちで考えたダンスをイラストで書いてきました。

下学年リレーの初めての練習の後、浮き彫りになった問題について子供たちが話し合いました。問題は「バトンとなる棒の渡し方」についてのルールです。棒を手渡しするのか、地面に置いて次の人が受け取るのか。手渡し派は「スピードが早くなる」よさを主張し、地面派は「地面に置くと、1・2年生が確実に上手く受け取れる」ことを主張しました。特に地面派は、「スタート地点の白線が棒を置く目印になり、分かりやすい」と話しました。話し合いはヒートアップし、Dさんが「いつまでも自分たち3年生だけ都合のいいように考えるのはよくない」と言ったところで、全員が「確かにそうだ」と納得しました。

また、3年生は1・2年生とペアを組むことに決めていましたが、私が「3年生だけのペアも作ってもいいよ」と声を掛けました。すると、「僕たちは、みんなで力を合わせて勝ちたいんだ」という声が次々に上がり、1・2年生とペアを組むことを選びました。リーダーとして、3年生の子供たちの成長が感じられた嬉しい瞬間でした。

ねぎ農家さんの見学

～地産地消の学習～

社会科に「農家の仕事」の学習があります。学習の最初、子供たちは、社会科の資料を見て、自分たちの身近な釜ヶ淵地区に田んぼが多く、お米の収穫も多いことにも気付きました。また、「なんで、立山町ではねぎの収穫量がこんなに多いんだろう」「どうして、最初にねぎを植えようと思ったのだろう」と、立山町のねぎの収穫量の多さに驚き、疑問を持ちました。自分たちの身近な釜ヶ淵地区に田んぼが多く、お米の収穫も多いことにも気付きました。

そこで、地産地消について自分たちで考え、森栄養教諭に立山町の特産品や地産地消のよさを聞き、実際にねぎ農家さんのお宅に見学に行きました。

◎森栄養教諭さんの話【8月31日（月）】

お話を聞く前に、自分たちで地産地消について考えました。最初、Iさんが「立山町は、工場が少ないから地産地消が少ないと思う」と言いました。すると、Sさんが「給食だよりの下の方に、立山町産の食材と書かれているよ」と教えてくれました。そこで、みんなで給食だよりを見て、立山町産の食材を見付けました。「こんなに、立山町の野菜が使われているんだ」「毎日、何かの食材が使われているんだね」、給食に使われている立山町産の食材の多さに子供たちはびっくりしていました。

森栄養教諭さんは、立山町の野菜は美味しい水や土で育つので美味しいこと、農家さんは立山町の子供たちに美味しい野菜を食べてほしいという思いをもって野菜を育ててくださっていること、地元の野菜だから新鮮で安心・安全であることを話してくださいました。



◎ねぎ農家さんへ見学【9月2日（水）】

泊新のねぎ農家の安田さんとアルプス農協の神田さんから、ねぎの種植えから収穫まで話や収穫した後の話を聞きました。子供たちは「ねぎは、ハウスで育てているのかな。それとも、外かな」と興味深々。一面に広がるねぎ畑を見て「わあ、こんなに植えているんだ」と声が上がりました。また、皮むき、裁断作業ができる機械を見て「あの機械すごい」「一瞬だね」と機械での作業の効率のよさに気付いていました。Aさんが「なんで、このねぎよけてあるの」と質問したことをきっかけに安田さんが出荷できるねぎには規格（葉の数、太さ、長さ）があることを教えてくださいました。

ねぎ農家さんに見学に行ったことで、ねぎ作りは1年をかける大変な仕事であること、厳しい規格があること、立山産の白ねぎは県外で「越中ねぎ」としてブランドになっていること等、実際の農家の現場に行って、生の農家さんの話を聞くことで子供たちは「農家の仕事」を実感することができました。



☆お知らせ☆

10月に算数でコンパスを使う学習があります。同じ種類の物で使い方を指導したいので、学校で一括購入します。ご理解下さい。

